

研究プロジェクト名：「古代世界における宗教的資料に基づく夢概念の分野横断型総合研究」

研究代表者名：津田謙治

研究分担者名：渡邊蘭子、河島思朗、早瀬篤、藤井崇

1. 成果報告

本研究は、西洋古代の様々な文献や史料に見られる夢概念を、宗教学（津田・渡邊）を主軸として、西洋古典学（河島）、哲学（早瀬）、歴史学（藤井）の三つの学問領域から総合的に分析することを試みるものである。

2021 年 12 月 15 日に、本研究が予備審査を通過したことを通告されてすぐに、研究代表者・分担者全員で今後の研究計画について具体的な内容を確認し（12 月 24 日）、翌月 2022 年 1 月から月に 1 回、1-2 名が研究報告を行うことを決定した。研究報告を行うための研究会は、研究代表者・分担者 5 名のうち 4 名（津田、河島、早瀬、藤井）が中心となって主催している「西洋古典学連携共同研究会」が中心となり、関連分野の研究者も交えつつ、Zoom で行うとともに、活動内容をホームページにて広く一般の人々に公開することとした（<https://www.ijacs.org/home>）。尚、この過程で、本研究における宗教学、西洋古典学、哲学、歴史学といった学問領域を中心としつつも、古代の医学という観点から木原志乃氏（國學院大學・教授）と古代の美術史という観点から中村るい氏（東海大学・教授）にも参加して頂き、より多角的な視点で西洋古代における夢概念を分析することを試みた。

詳細については別項目で記載するが、2022 年 1 月には早瀬が哲学（プラトン）の観点から、2 月には河島が西洋古典学（ホメロス）、藤井が歴史学（アルテミドロス）の観点から、そして 3 月には津田と渡邊が宗教学・キリスト教学（テルトゥリアヌス、アウグスティヌス）の観点からそれぞれ夢概念に関する研究報告を行った。この過程で、研究参加者は研究報告を通じて分野横断型総合研究を構築するための活発な議論を行ったが、その内容の一部は、2022 年 6 月に日本西洋古典学会の学術大会フォーラム（『夢』）で報告することとなった（発表者：河島、早瀬、中村、木原、藤井、津田）。本フォーラムは京都大学にてハイブリッド形式で開催され、フォーラムだけでも対面で約 70 名、オンラインで 100 名以上が参加し、質疑応答において極めて活発に意見が交換された。このフォーラムでの報告をもとに、7 月 2 日には議論をさらに発展させるべく、座談会をオンラインで開催し、この主題に関心をもつ他の研究者や学生たちも交えつつ、西洋古代における夢概念を、研究分野を横断して分析する視点を構築することが可能となった。

2. 成果発表

上述の研究フォーラムでの意見交換を経て、以前より構想を描いていた本研究の書籍化を進めるため、すぐに研究内容の原稿化とそれをもとに研究会での討論を開始した。これも詳細については別項目で説明するが、2023 年 5 月には最初原稿の検討が始まり、2024 年 8 月までにすべての原稿を研究会で精査し、順次出版社に送ることとなった。その間、アリストテレス（早瀬）とキケロ（河島）に関するコラムの収録を決めるとともに、臨床心理学の観点から夢を分析するものとして、粉川尚枝氏に研究報告とコラムの執筆を依頼し、書籍に収録する方向で調整をおこなった。

以上の研究会での活動の集大成として、本プロジェクトでは、以下の書籍を成果発表として刊行することとなった。

- ・津田謙治、河島思朗、早瀬篤、藤井崇（編）『ヨーロッパ古代と夢』京都大学学術出版会 2025 年 7 月

本書は、本プロジェクトに基づいたかたちで、古代世界における宗教的資料を分析することを通じて、様々な分野を横断しつつ夢概念を総合的に研究することを試みるものである。これは、本プロジェクトメンバー5名の専門分野（ユダヤ学、キリスト教学、西洋古典学、哲学、歴史学）に加えて、さらに発展的に3名の分野（医学、美術史、臨床心理学）から夢概念を多角的に分析しつつ、一般の読者にも分かりやすいかたちで古代世界の夢に関わる諸問題を論じている。

3. 本研究に関わる主要な発表・公刊物一覧（フォーラムや学会の報告書類は除く）

a. 「研究発表」

- ・津田謙治「テルトゥリアヌス『魂』における夢概念の分析」
（第6回「西洋古典学連携共同研究会」2022年3月8日）
- ・津田謙治「アレクサンドリアのフィロンの夢類型」
（第8回「西洋古典学連携共同研究会」2022年5月14日）
- ・津田謙治「アレクサンドリアのフィロンにおける夢の位置付け」
（「日本西洋古典学会・第71回学術大会フォーラム『夢』」2022年6月4日）
- ・津田謙治「オリゲネスにおける夢の位置付け」
（「日本宗教学会・第81回学術大会」2022年9月10日）
- ・津田謙治「アレクサンドリアのクレメンスにおける真の夢概念」
（「日本宗教学会・第82回学術大会」2023年9月9日）
- ・津田謙治「カッパドキア教父と夢」
（「京都哲學會・公開講演会」2023年11月3日）
- ・津田謙治「殉教伝と夢」
（「日本宗教学会・第83回学術大会」2024年9月14日）
- ・渡邊蘭子「アウグスティヌス『創世記逐語注解』12巻における霊的視像としての夢」
（第6回「西洋古典学連携共同研究会」2022年3月8日）
- ・渡邊蘭子「キリスト教と夢：夢をめぐるアウグスティヌスの思索」
（第29回「西洋古典学連携共同研究会」2024年8月2日）
- ・河島思朗「西洋古典文学における夢」
（第5回「西洋古典学連携共同研究会」2022年2月14日）
- ・河島思朗「夢見の場面の考察：ホメロス、ウェルギリウス、オウィディウス」
（「京都大学西洋古典研究会」2022年4月23日）
- ・河島思朗「叙事詩における夢見の描写」
（「日本西洋古典学会・第71回学術大会フォーラム『夢』」2022年6月4日）
- ・河島思朗「夢は外からやってくる」
（第25回「西洋古典学連携共同研究会」2024年4月24日）

- ・河島思朗「キケロ『ト占について』」
(第31回「西洋古典学連携共同研究会」2024年8月23日)
- ・早瀬篤「プラトンと夢の問題」
(第4回「西洋古典学連携共同研究会」2022年1月19日)
- ・早瀬篤「プラトンは夢が未来を予言することを認めるか？」
(「日本西洋古典学会・第71回学術大会フォーラム『夢』」2022年6月4日)
- ・早瀬篤「プラトンは夢が未来を予言することを認めるか？」
(第28回「西洋古典学連携共同研究会」2024年7月3日)
- ・早瀬篤「アリストテレスの夢理解」
(第30回「西洋古典学連携共同研究会」2024年8月9日)
- ・藤井崇「アルテミドロス『夢判断の書』における諸関係とその理解の系譜」
(第5回「西洋古典学連携共同研究会」2022年2月14日)
- ・藤井崇「ローマ帝国の夢の世界：アルテミドロス『夢判断の書』とその同時代的文脈」
(「日本西洋古典学会・第71回学術大会フォーラム『夢』」2022年6月4日)
- ・藤井崇「ローマ帝国の夢と夢判断：アルテミドロス『夢判断の書』の内側と外側」
(第32回「西洋古典学連携共同研究会」2024年8月30日)

b. 「論文」

- ・津田謙治「テルトゥリアヌスにおける夢概念の分析 — 『魂』の議論を中心として」
(『キリスト教学研究室紀要』第10号、2022年3月、1-18頁)
- ・津田謙治「アレクサンドリアのフィロンの夢類型 — ストア主義および神秘主義的文脈における再検討」
(『キリスト教学研究室紀要』第11号、2023年3月、1-13頁)
- ・津田謙治「カッパドキア教父と夢 — 初期アレクサンドリア教父との比較において」
(『哲學研究』第612号、2024年6月、1-29頁)
- ・津田謙治「殉教伝と夢 — 天上の報いと執り成し」
(『キリスト教学研究室紀要』第13号、2025年3月、1-20頁)
- ・渡邊蘭子「アウグスティヌス『創世記逐語注解』12巻における霊的視像としての夢」
(『キリスト教学研究室紀要』第10号、2022年3月、45-63頁)

c. 「書籍」

- ・ピーター・トーネマン『古代ローマ人は皇帝の夢を見たか — アルテミドロス『夢判断の書』を読む』
藤井崇監修・藤井千絵訳（白水社・2023年）

d. 「その他」（フォーラムや学会の報告書、研究会の開催など）

- ・津田謙治「アレクサンドリアのフィロンにおける夢の位置付け」
(『西洋古典学研究』第70号、2023年2月、71-72頁）（フォーラム報告書）
- ・河島思朗「叙事詩における夢見の描写」
(『西洋古典学研究』第70号、2023年2月、64-65頁）（フォーラム報告書）
- ・早瀬篤「プラトンは夢が未来を予言することを認めるか？」

- (『西洋古典学研究』第70号、2023年2月、65-66頁)(フォーラム報告書)
- ・ 藤井崇「ローマ帝国の夢の世界 — アルテミドロス『夢判断の書』とその同時代的文脈」
(『西洋古典学研究』第70号、2023年2月、70-71頁)(フォーラム報告書)
 - ・ Rafal Matuszewski (ザルツブルク大学) "Divination and Diviners in Artemidorus 'Dreambook'"
(第14回「西洋古典学連携共同研究会」2023年3月2日)(研究会の開催)